

紙・パルプ

【要約】

- 2010 年度の紙・板紙内需は、板紙は景気回復により緩慢ながらも回復基調を辿るものの、紙は印刷情報用紙・新聞用紙の減少トレンドが継続することから、前年度比+0.1%の 2,773 万トンと略横這いを予想する。
- パルプ需給逼迫化に伴う海外市況の上昇により、アジア圏との国内外価格差が縮小することから、2010 年度の紙・板紙輸入は前年度比▲21.4%の 151 万トン、紙・板紙輸出は同+29.1%の 158 万トンと予想する。
- 2010 年度の生産は、紙の輸入減及び輸出増並びに板紙の内需回復により、前年度比+3.5%の 2,783 万トンと予想する。
- 2010 年度の企業業績は、輸出増などにより増収を見込むものの、原燃料価格の上昇の影響による減益を予想する。

【図表4-1】紙・板紙需給動向

【実額】

	摘要 (単位)	08fy (実績)	09fy (実績)	10fy (予想)	09/上 (実績)	09/下 (実績)	10/上 (予想)	10/下 (予想)
内需	紙・板紙 (千トン)	28,955	27,705	27,739	13,714	13,991	13,785	13,953
輸出	紙・板紙 (千トン)	1,268	1,228	1,584	501	727	809	776
輸入	紙・板紙 (千トン)	1,332	1,927	1,515	943	985	759	756
生産	紙・板紙 (千トン)	28,849	26,892	27,839	13,330	13,562	13,861	13,978

【増減率】

	摘要 (単位)	08fy (実績)	09fy (実績)	10fy (予想)	09/上 (実績)	09/下 (実績)	10/上 (予想)	10/下 (予想)
内需	紙・板紙 (%)	▲ 7.5%	▲ 4.3%	+ 0.1%	▲ 11.5%	+ 4.0%	+ 0.5%	▲ 0.3%
輸出	紙・板紙 (%)	▲ 11.3%	▲ 3.2%	+ 29.1%	▲ 34.3%	+ 43.7%	+ 61.4%	+ 6.7%
輸入	紙・板紙 (%)	▲ 1.8%	+ 44.7%	▲ 21.4%	+ 48.3%	+ 41.5%	▲ 19.5%	▲ 23.2%
生産	紙・板紙 (%)	▲ 8.2%	▲ 6.8%	+ 3.5%	▲ 14.6%	+ 2.5%	+ 4.0%	+ 3.1%

(出所) 経済産業統計協会資料等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注) 2010 年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予想

I. 産業の動き

1. 需給

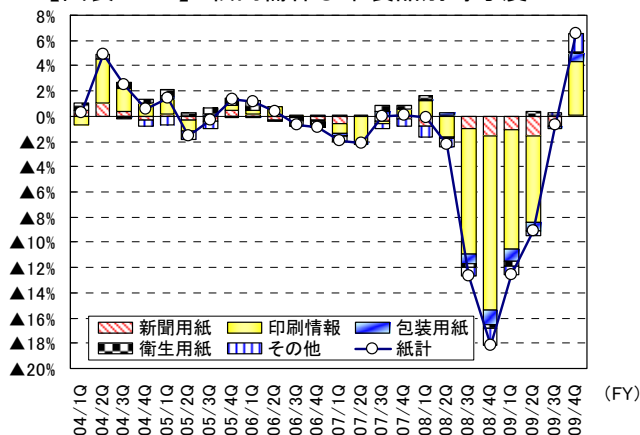
2009年度の内需
は減少

2009年度の紙・板紙内需は、2,770万トン(前年度比▲4.3%)となった。品種別に見ると、紙は、チラシ・カタログ等商業印刷向けを中心とした印刷情報用紙の大幅減や、広告出稿の低迷によるページ数の減少に伴う新聞用紙の減少などにより、同▲4.5%となった。板紙は、上期に、消費マインドの冷え込みや夏場の天候不順により、電気・機械器具向け及び食料品向け段原紙が大幅に減少したものの、下期には需要回復を見せたことから、同▲4.1%となった(【図表4-2~5】)。

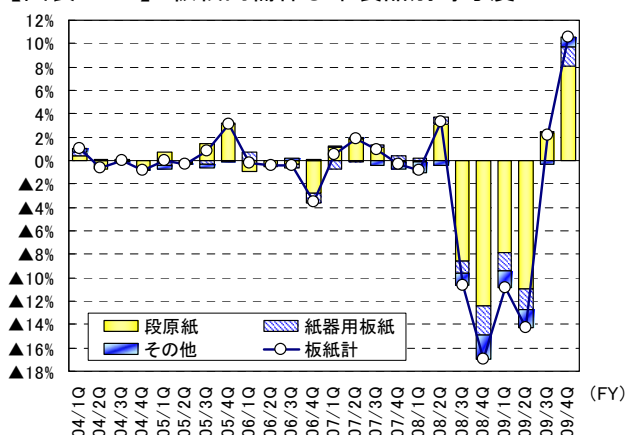
2010年度の内需
は略横這い

2010年度の紙・板紙内需は、2,773万トン(前年度比+0.1%)と略横這いを予想する。紙では、包装用紙については、景気回復に伴う緩やかな増加が見込まれる一方、印刷情報用紙や新聞用紙については、企業の広告出稿抑制や情報収集媒体の多様化に伴う発行部数減少などによる減少トレンドが継続し、同▲1.3%の減少を予想する。板紙では、薄物化の動きが継続するものの、段原紙について、前年度の落ち込みが大きかった電気・機械器具向けを中心に改善に向かうことから、同+2.2%の増加を予想する。

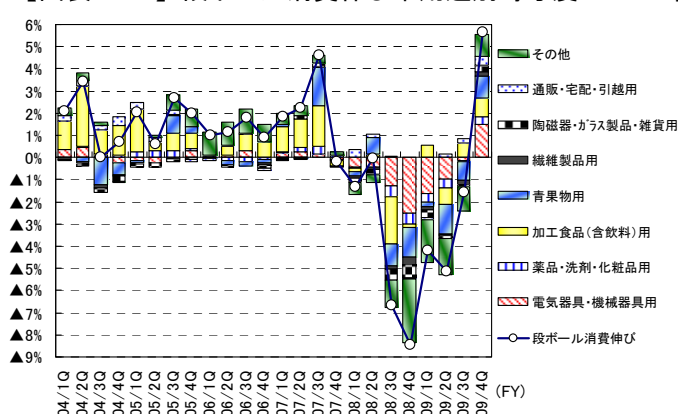
【図表4-2】紙内需伸び率製品別寄与度



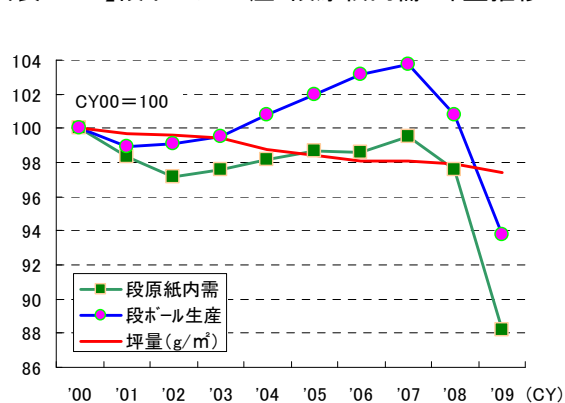
【図表4-3】板紙内需伸び率製品別寄与度



【図表4-4】段ボール消費伸び率用途別寄与度



【図表4-5】段ボール生産・段原紙内需・坪量推移



(出所)【図表4-2~4】経済産業統計協会資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

【図表4-5】経済産業統計協会資料、紙・板紙統計年報よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

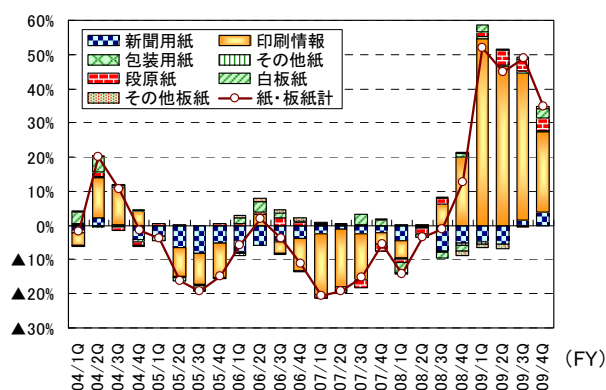
2009年度の輸入
は大幅増

2009年度の紙・板紙輸入は、192万ト（前年度比+44.7%）と大幅に増加した。海外市況の下落や円高の影響等により、中国やインドネシアをはじめとするアジア圏から印刷情報用紙の輸入が急増した（【図表4-6、7】）。

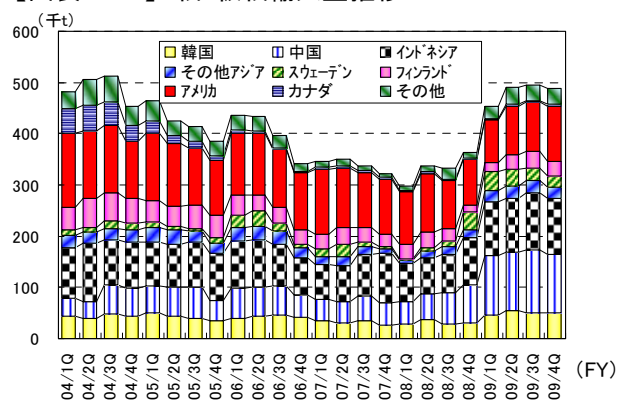
2010年度の輸入
は減少を予想

2010年度の紙・板紙輸入は、151万ト（前年度比▲21.4%）と予想する。アジア需要の拡大により、輸入パルプ依存度の高いアジア圏でのパルプ需給が逼迫化していることに加え、チリ大地震によるパルプ工場操業停止の影響でパルプ価格が高騰し、足許の海外市況は上昇している。このため、アジア圏との国内外価格差が縮小し、輸入量は減少することが見込まれる。

【図表4-6】紙・板紙輸入品種別伸び率寄与度



【図表4-7】紙・板紙輸入量推移



（出所）【図表4-6、7】ともに日本紙類輸入組合資料等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

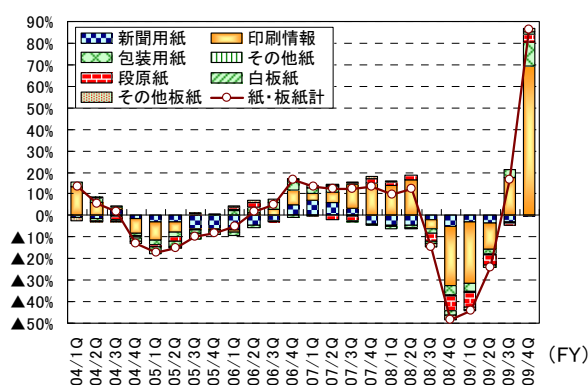
2009年度の輸出
は微減

2009年度の紙・板紙輸出は、122万ト（前年度比▲3.2%）となった。上期は、輸出先のアジア各国の需要低迷により大幅減となったが、下期は堅調なアジア需要やアジア圏との価格差縮小などにより増加に転じた（【図表4-8、9】）。

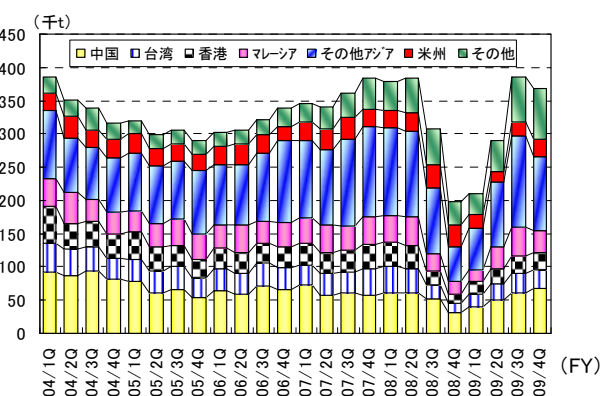
2010年度の輸出
は増加

2010年度の紙・板紙輸出は、158万ト（前年度比+29.1%）と予想する。アジアにおける旺盛な需要及び国内外価格差の縮小を背景に、洋紙を中心に総じて高水準で推移するものと見込まれる。

【図表4-8】紙・板紙輸出品種別伸び率寄与度



【図表4-9】紙・板紙輸出量推移



（出所）【図表4-8、9】ともに日本紙類輸出組合資料等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

2009年度は大幅な生産調整

2009年度の生産は、2,689万トン(前年度比▲6.8%)となった。紙・板紙とも、上期は、内需低迷・輸出減、輸入増の影響を受け、大手各社は市況維持のため生産調整を強めた。下期には、内需と輸出は回復し、生産量も増加に転じたが、上期の減少を補うに至らなかった。紙は同▲7.8%、板紙は同▲5.2%となった。

2010年度は生産は増加

2010年度は生産は、2,783万トン(前年度比+3.5%)を予想する。紙は、内需は微減となるものの、輸出増・輸入減により同+3.9%、板紙は、内需回復により同+3.0%の増加をそれぞれ見込む。

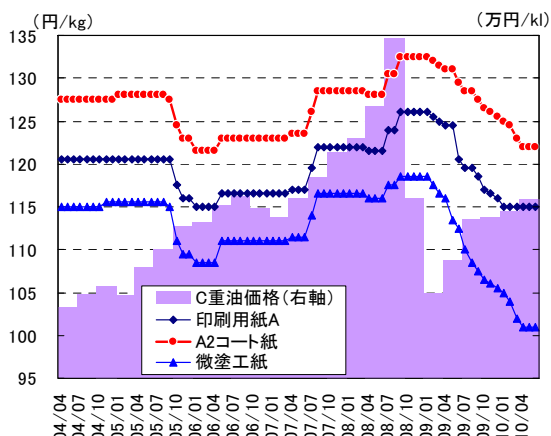
2. 市況

印刷情報用紙市況は横這いを予想

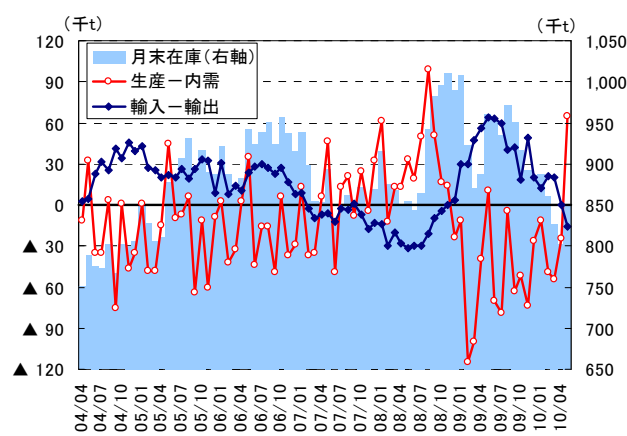
2009年度の印刷情報用紙市況は、大手各社が市況維持に向けた生産調整を継続したものの、アジア圏からの輸入が増加したことから、需要家からの値下げ圧力が強まったため、軟調に推移した(【図表4-10、11】)。

2010年度に入っても、内需の回復力は依然として乏しいものの、アジア需要回復とパルプ価格の高騰による海外市況の上昇により、市況は略横這いでの推移を予想する。

【図表4-10】印刷情報用紙市況推移



【図表4-11】印刷情報用紙生産・輸入・在庫推移



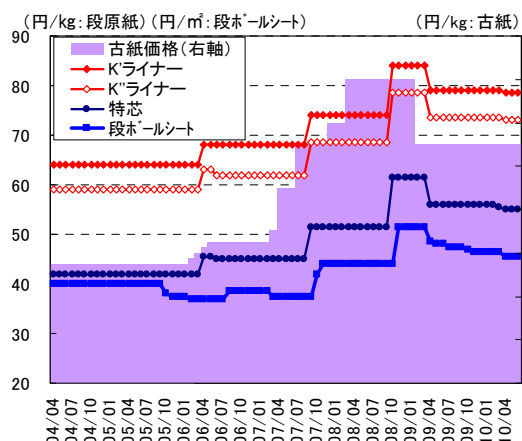
(出所)【図表4-10、11】ともに経済産業統計協会資料等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

段原紙市況は横這いを予想

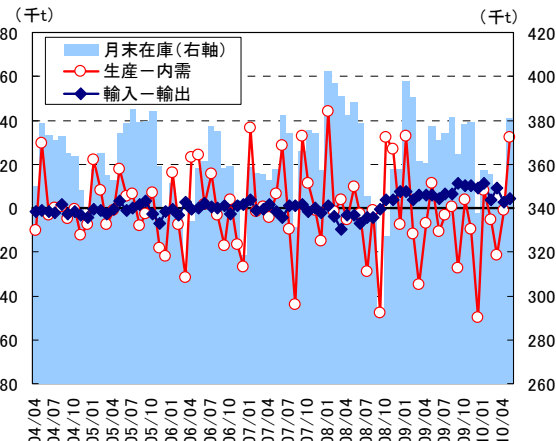
段原紙は、輸送コスト面で輸入圧力が小さいことから、2009年度の市況は、原料燃料価格の低下にもかかわらず値下げ圧力は限定的で、安定的に推移した(【図表4-12、13】)。

2010年度も、古紙市況が輸出価格の上昇に引きずられる形で強含みに推移する一方、内需回復は依然として緩慢であることから、市況も引き続き横這いでの推移を予想する。

【図表4-12】 段原紙市況推移



【図表4-13】 段原紙生産・輸入・在庫推移



(出所)【図表 4-12、13】ともに経済産業統計協会資料等よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注) 古紙価格は段ボール古紙の東京都内及びその近郊の古紙問屋店頭渡し価格

Ⅱ. 企業業績

2009 年度の企業
収支は減収増益
に

2009 年度の紙パルプ大手 5 社(王子製紙、日本製紙グループ本社、大王製紙、三菱製紙、北越紀州製紙)の売上高は 3 兆 793 億円(前年度比▲8.3%)、営業利益は 1,538 億円(同+78.1%)となった。需要低迷、市況下落の影響を受け減収となったが、原燃料価格下落とコスト削減が寄与し、増益となった。

2010 年度の企業
収支は増収減益
に

2010 年度の売上高は 3 兆 1,731 億円(前年度比+3.0%)、営業利益は、1,474 億円(同▲4.1%)と予想する。売上は、輸出増などにより若干の増収を見込む。一方、利益は、各社ともコスト削減を継続するものの、原燃料価格の一定の上昇が見込まれることから、減益を予想する(【図表 4-14~16】)。

【図表4-14】 企業業績(連結ベース)

【実額】

	(社数) (単位)	08fy (実績)	09fy (実績)	10fy (予想)
売上高	5社 (億円)	33,570	30,793	31,731
営業利益	5社 (億円)	863	1,538	1,474

【増減率】

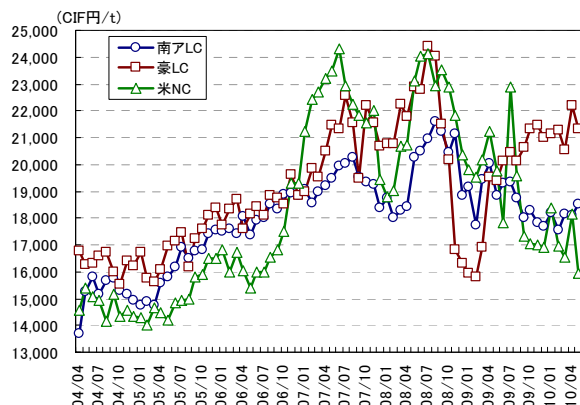
	摘要 (単位)	08fy (実績)	09fy (実績)	10fy (予想)
売上高	伸び率 (%)	▲ 1.8%	▲ 8.3%	+ 3.0%
営業利益	伸び率 (%)	▲ 24.5%	+ 78.1%	▲ 4.1%

(出所) 各社資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注 1) 2010 年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予想

(注 2) 5 社・・・王子製紙、日本製紙グループ本社、大王製紙、三菱製紙、北越紀州製紙

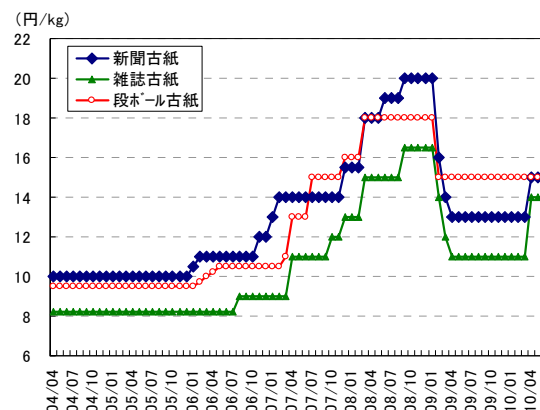
【図表4-15】 輸入チップ市況推移



(出所) 日本紙類輸入組合資料より

みずほコーポレート銀行産業調査部作成

【図表4-16】 古紙市況推移



(出所) 古紙再生促進センター資料より

みずほコーポレート銀行産業調査部作成

(注) 東京都内及びその近郊の古紙問屋店頭渡し価格

Ⅲ. トピックス ～ アジアビジネスへの取り組み強化による紙・パルプ産業の成長戦略

大手紙・パルプメーカーはアジア展開を本格化

近年、大手紙・パルプメーカーはアジア・オセアニアへの事業展開を本格化させている。王子製紙は、マレーシア最大の板紙メーカーである GSPP 社を買収したほか、中国・南通では印刷・情報用紙生産工場の稼動を開始する。また、日本製紙グループは、豪州第 3 位の製紙メーカーであるオーストラリアンペーパー社の買収、永豊餘造紙(台湾)の板紙事業や中国第 2 位の板紙メーカーである理文造紙への出資など、M&A の動きを加速している。

国内環境が厳しい中、アジア市場は着実に成長

アジア展開の背景としては、まず、軽包装化・薄物化の進展やインターネット普及に伴う紙依存の低下などの構造要因による内需成熟化、アジアからの安価な輸入紙流入拡大といった、わが国紙・パルプ産業の厳しい現状がある。そして、世界不況による需要減退からいち早く脱し、今後も持続的な経済成長を背景とした成長が予想されるアジア市場への期待も挙げられる。

価格形成力、コスト競争力、技術力といった優位性を構築

日本の紙・パルプメーカーは内需成熟化の中で、①寡占化進展による価格形成力、②パルプ紙一貫生産体制構築によるコスト競争力、③環境対応等への技術力といった優位性を構築し、世界に伍する存在となった。

アジア事業環境には先行き不透明感も、競争力発揮により対応可能

他方、有望視されるアジア市場も、中国紙・パルプメーカーの台頭による競争激化、建設中の工場の相次ぐ稼動開始による供給過剰の懸念、生産拡大に伴う原材料(古紙・パルプ)不足及び原材料価格高騰など、事業環境では不透明な要素を抱えている。しかしながら、わが国紙・パルプメーカーは、上記競争優位性の発揮により、事業リスクに対応しながら、アジアでのビジネス展開を進めていくことが十分可能であると考えられる。

プレゼンス拡大継続によりアジア市場の捕捉を

引き続き、積極的・継続的な M&A や資本・技術提携によりアジアでのプレゼンス拡大に努めるとともに、海外自社植林地の拡大や中国での古紙回収システム確立への助言などを通じ、原材料の安定確保に向けた体制を構築することが期待される。

(素材チーム 田中 淳一)

junichi.tanaka@mizuho-cb.co.jp